

〈札幌支部〉 日本語ボランティア サークル「窓」

今回は、ここ札幌支部においてもっとも身近な地域・異文化交流団体である日本語ボランティアサークル「窓」について紹介したい。

札幌市内において、外国人に日本語を教えるボランティアサークルは一〇団体あるが（平成二六年八月現在）、その中において「窓」は、全国の大学を卒業したOGで構成される大学婦人協会札幌支部から独立した有志により平成五年四月に発足したサークルであり、札幌市を中心とした地域に居住し日本語を学びたいとする留学生などの外国人を対象に、ボランティアによる日本語学習を主とした活動を行っている。その活動拠点となっているのが当札幌支部の所在する札幌留學生交流センターの会議室であることから、冒頭もっとも身近な存在として紹介したわけである。

「窓」の活動は、毎週火・木・土の週三回行われており、

日本語を教えているボランティア陣は、出身母体を反映して女性中心となっているが、ウィークデイにおいては主婦や学生、週末においては退職者や現役の専門学校教師などが活躍している。また、登録している外国人学習者は、平成一六年度において三〇九人、活動に参加した学習者数は四一か国延べ三六〇八人にも上り、その中に活発に参加している当札幌国際交流会館の館生が含まれているのはもちろん言うまでもない。（逆に「窓」に参加するため当会館に寄宿を希望する留学生もいるほどである。）

ここまで人気がある要因の一つに、いわゆる「窓メソッド」（窓教授法）というものが挙げられる。これは、テキスト修了のみを指した画一的教授方法とは違い、マンツーマンを基本として、個人個人のニーズや生活状況などに基づいた真に必要なとされるレベルの学習



を、テキストに囚われず柔軟に行っていくことで、日常会話から学術論文レベルまで対応できる日本語の着実な習得を図ることを目的とした教授方法であり、これが他の日本語教育ボランティア団体とは、学びやすさの点で一線を隔している理由となっているようである。

さらに、札幌市の外郭団体で市民の国際交流活動推進の中心となっている「札幌国際交流プラザ」と企画を組んだイベントである特別プログラムや札幌市内の小学校への国際交流授業協力のための講師派遣など、地域交流に大きく貢献する活動も積極的に行っている。そうした活動が実績となって広く認知されてきたゆえか、「窓」は、札幌国際交流プラザ等一部の関係機関を通じて登録会員の募集しか行っていないにもかかわらず、口コミやインターネットによる評判を受けて、年々その活動規模を大きくしているのである。

もうひとつ、「窓」の教育スタイルの根底を支える方針を表現しているのが、「学はん会（まなばんかい）」という活動ネームである。札幌支部の会議室利用案内には、この名前が頻繁に書かれている。これは、日本語教育を一方通行で行うのではなく、相手の文化や人間を知り、「共に学んでいこう」という意識の下、日本語教育を通じて市民レベル

での総合的な交流を目指すというテーマを端的に表しているものであり、秀逸なネーミングといえよう。

「学ばん会」においては、その名にふさわしい学習集団としての質の維持向上を目指し、常に積極的な取組を行っている。例えば、外国人学習者からのさまざまな要望に応えるためにボランティアが自身の教授能力の向上を図り、マナーや日本語の基本文法などの学習を行うのに必要最低限の基礎を身に付けるための研修会に参加したり、学習者との異文化交流会において日常的に「言語を媒介とした共育」をテーマとした双方

学習を実践するなど、その実行方法はさまざまである。こうした双方向に対する効果的な学習体制を構築していくことで、ボランティア・学習者共に真に向心のある人だけが継続していくこととなり、これまでのグループ全体のレベルアップの達



成が図られてきたところである。

このような「窓」に対し、アンケートによる外国人学習者の感想は、これまでの活動や学習方法について「個人のレベルや都合に合わせて勉強できることが良い」「学習場所や教室の雰囲気が良い」「さまざまな経験ができて楽しい」など、好意的な評価が大半を占める一方、「先生の数が少ない」「ホームページがあれば便利」など活動の拡充に対し、環境整備がなかなか追いつかない側面に対する要望があることも事実である。

これについては、これまで高い評価を受けてきたハード面は変えることなく、ニーズをより多く踏まえたソフト面を充実させていくことにより、今後のサークル活動のさらに大きな飛躍が期待されることである。

各地域の大学が主



体となった留学生との交流、あるいは地域住民を交えた文化祭・町内会等の催し物や地域小中学校への学校訪問など、地域交流・連携の中核として各種の活動を行うことは、もはや地域に根ざす大学の使命とも言えるほど一般化した感があるが、大学という場を仲介にしつつも現役学生・職員の枠から飛び出して、地域に密着した新たな流れを作り出し、市民レベルでの交流を広げようと精力的に活動を行っている「窓」を見れば、地域・異文化交流事業の進むべき方向を考えていく時に参考となる多くのヒントが浮かび上がってくるのではないだろうか。発展系サークル「窓」の今後に注目したい。